尾張旭市立東中学校　進路便り　　平成２８年３月１日
第７９号

Crossroads

《公立一般入試合格発表について》

17 日（木）が合格発表で，各校で 10 時に行われます。第２回進路説明会の要項にも掲載しましたが，この日の動きについてもう一度確認します。

・第１志望校と第２志望校ともに合格圏内ならば，第１志望校が合格となります。その場合，第２志望校は合格したことにはなりません。また，２校受検した場合，受検したどちらの高校に行っても結果が分かるようになっています。

① 発表を見に行った高校に合格の場合　→　「本校に合格」
② もう一方の高校に合格の場合　→　「相手校に合格」
③ ２校とも不合格だった場合　→　受験番号がない

どちらかの高校に合格した場合

・12 時に制服で東中体育館に集合します。そこで合格通知を渡します。

不合格だった場合

・自宅で待機し，担任からの電話連絡を待ちます。
〇私立高校・専修学校が合格している場合　→　進学先の確認をします。
〇進学先が決まっていない（全て不合格）の場合
→　定時制・通信制・二次募集などの出願手続きを進めます。

≪私の進路選択≫

第１０弾は，国語科担当の加藤洋佑先生です。

結果は「不合格」。目の前が真っ暗になった。確かに担任の先生は「洋佑、多分厳しいよ」と伝えてくれていた。が、実際にそれを目の当たりにしたとき、心の準備は正直全然できていなかった。１５歳の２月、推薦入試の合格発表の日。

いくら予想をしていたと言っても、当時１５歳だった自分の拙い想像力では足りなかった。ただただショックだった。このあと、不安な日々は１ヶ月近く続くこととなる。

公立入試に向けてどれだけ学習しても足りない気がする。教室にかけられたカウントダウンカレンダーの数字が気持ちを焦らせる。眠れない。教室では、既に私立入試（主に推薦）で第１希望の高校に進学を決めたクラスメイトが春休みに

行く卒業旅行の話で盛り上がっている。仲が良いので、気を遣いながら話を進めてくれているのは分かるが、まだそんな気にはなれなかった。担任の先生はことあるごとに「最後だから」「後悔のないように」「友達と良い思い出を」を連発している。進路も決まらず、不安でいっぱいの状態で良い思い出と言われても…酷だ。でも、友達とも楽しく過ごしたい、という気持ちもある。…難しい。

推薦入試の後、あっという間に卒業式の日は来た。これまで練習してきた「旅立ちの日に」は最高の出来だった。声変わりの途中であるが、大分低い音も出るようになった男声パートの力強い歌声とソプラノとアルトのハーモニーは式場にいる全員を感動させた、と思う。思い思いに友達や先生と別れを告げ、進路の決まらないまま、中学校を卒業した。

どれだけ進路の決まっている人達が羨ましかったか分からない。きっと、あと１０日もすれば同じ状態になれると心では分かっていても、その１０日間が羨ましかった。ただ、今の自分にやれることは、入試に向けての勉強。それしかなかった。だから、勉強した。精一杯、試験の当日まで、直前まで、英単語を覚え、漢字を書き、過去問を解き、復習に徹した。テレビもゲームも小説も我慢した。メールは、少しだけした。メールの相手は、公立推薦で合格が決まった人だった。

「受験が近いから、返信はいらないから」と前置きし、励ましの言葉を贈ってくれていた。その心遣いが嬉しかった。

試験当日。あまり眠れなかったが、やれることはやった。後は野となれ山となれ、と腹をくくって試験を受けた。各教科の直前の２０分間も単語帳などの復習をして、時間を無駄にしないように気を付けて、やれるだけのことはやって試験に臨んだ。

そして、合格発表の日。掲示板の自分の受験番号の横には、はっきりと「本校に合格」の文字があった。

みんなの中には、すでに進路が決まった人も、まだ決まっていない人もいます。全員が闘いながら、葛藤しながら、この中学生最後の日々を送っていると思います。昔、同じように中学生だった先生からのアドバイスは２つです。

①やれるだけの努力をしよう。

②友達を精一杯思いやろう。

支えてくれた友達や家族への感謝の気持ちと、不安だったけれど、がむしゃらに努力した日々は今でも忘れられません。

第１志望の高校に行けたから、バラ色の人生があるわけではありません。第２志望になったから人生終わり、というわけでもありません。偏差値で人間の価値は絶対に決まりません。大切なのは、進んだ先でどう成長するかです。だから、今も、これからも努力を続けて欲しい。それが先生からの願いです。皆さんの進路選択が、皆さんの人生にとってより良いものになるように祈っています。